

大頭
全書

世界國畫

特54

102

阿非利加の事
 阿非利加州の廣さ
 八千二百九十四萬
 坪人の數六千四百
 萬北の方より歐羅
 巴人の種もあり其
 餘ハ大抵黒奴にて
 風俗甚ど陋一國々
 王といひ帝と唱
 へて支配の君あり

阿非利加州

阿非利加州乃廣大

ハ大海洋の東ニ南

北二千三百里西

東ニ

世界圖卷二



とどき強き者の力
づくふて弱き者と
苦むる風をれせ
争の絶間をいと



阿非利加の四方皆

此の海を二百里
四方は海峽湾曲を
入海稀き河が
内地の様は様々
んと船の往来は便

海まで唯此洲
へ續く處は未洲の
地峽とて百里をい
その地續るのこ
この地續きハ蒸氣
車の路ゆて一日
を往來もべ一又四
五年前より佛蘭西
人の目論見よ此
地續と掘割を通船

あり海峽海岸は一通
西洋人の往來は
陸地は物の産
地は廣く人も少
少あり人とも少

の路を開かんとして
 大抵海向もつた
 小舟の通ハ既に出
 来よよ一の船割
 余々成就一をバ歐
 羅巴もて東洋の帆
 度支那等一航海も
 小喜望峯と廻ら
 して地中海にも
 直は西紅海へいど

又其志より枝
 藝あく北と東の敷
 首國が能きまの
 冬一様一各智洋
 此の一世身を為國

余程の近路あり
 ○衛士府都ハ山少
 く平地あり内留し
 中央と流さるるの
 濕子て田畑も登る
 日折々河の水溢る
 其跡ハ却て作物よ
 く出来さる此國

此計より一海無海
 乃ち其志より東海の西
 能術士府都一河非
 利加一の一國を為古
 名士留吉よる支記受

の人ハ大水ヲ以て
豊年の瑞として悦ぶ
よ



市一北ありて今
はあはれて獨立國
は東海ありて中
をなす河内留河の
東は海橋、海士府

大の造ハ不思議カ
地は四時とも
雨降るは草木と養
ふりのハ夜の露の
時候ハ熱く砂塵
と吹立人の住居
ハ快かたど産物ハ
米麥錦烟草の類カ
衛士府都ハ古き國

都國の首府あり河
の波岸ありて是は
市一北ありて今
はあはれて獨立國
は東海ありて中
をなす河内留河の
東は海橋、海士府

まで名所曰跡沃山
 あり宮寺あどの跡
 も大造りつもの跡
 比羅三井天の敷
 六七十年其最
 え大なるもの一本
 文おもいへる通
 高と四百八十尺世
 の言傳は三十年以
 前國王の墓碑は建

支那の系を以て
 聲を起る古
 跡を以て乃後台
 如く田畠を流る
 人々多しなり



エーモのさうと

信望國中より南河
 流志江屋西の海乃
 漸戸の口南東に楚
 本林國印度の海に立
 ち赤道越えを南

○信野ハ衛府都
の支配ナリ阿蘇志
仁屋ハ獨立國ナリ
此邊の河ニハ水ト
トモトモといふ獸
ト大ニ象の如ク



如クニ義系ト名山以丘
レハ河非利加乃東國江
「名山以丘」の港トモ海
「痛」麻田糟糖印友
海以西方ト一列トモ互

○麻田糟糖ハ文化
年中ハ歐羅巴の
諸國ト條約ト結び
俄ニ風俗改メ文武
トモ小盛ナリ
又政トシテ其國王
良多馬ふ者王妃
ト毒害トシテ以テ
ト國中大制の世
トあり一時ハ外國

多ク島のトモ人氏四
百七十萬ト南洋人
ト法東トシテ音讀ハ
第リ舞カト一國
以昇化ト近

人とも残らざ追出
したる近來ハ又々
開國しちを外國の
附合も始りしを
とも以前は戦れ
國の成先大日家
全く鎖國の
騷動のやいかに
國の都と細糸龍
といふはより繁

麻田糟輕乃西南
阿維利加海の陸の
陸西一廻きは
西海の風小陽を
西海の風小陽を



○專望峯の地ハ

麻田糟輕乃西南

換影を記章遠をぬ
英吉利印度地
舟一巾船名長水海
海の河多羅羅海越
志一以陸比

和蘭の領分あり
一が六十年以前より
英吉利の支配と
せられし故に當時も
和蘭人の種多し喜
望峰の港の名とけ
いふとせんといふ
商賣繁昌し産物も
多し南の方幾天戸
池屋の邊に住居を

旅行の概なり
中島んちの島
と名舟子以情致波
りるも名以下
又その人喜望峰

阿非利加人の實
を愚小して人間の
内の下等なりといふ



乃西の「葦天戸」池
屋新部橋上下銀
石は「理都利」國又
その北の二箇國を志
留良禮恩し「漸」松質

○銀名國ハ二分
南の方と下銀名
といひ北の方と上
銀名といふ其界
あいぜとて大河
ゆり上銀名ハ
慶又英吉利和蘭等
の領分ゆり土地
の産物砂金又ハ柳
子の實の油かと

「宮」
「阿非利加」
西國の初より國とのあり
極ハ東の國より異なる
しり中より一區の裡
部利屋ハ「阿非利加」

積出せし下銀名
ハ葡萄牙の領分
此邊ハ柳子多
折々人と害と恐
るべきとせり

乃國柄一種無款
共和政人民ん
議事院
事議北亞米
利加の自由



○古來阿非利加の風俗流行して人と賣買はあつたといふに生涯買切の奉公人といふものとやうに亞米利加のやうに夥しく人の買切は田畑乃

此風俗福を以て暗き一面の星乃耀々たる北の東を以て一面の地中海の沿岸に於て

働は用て牛馬同様は取扱ふ風習なりしが心ある人はこれと憐れ救ふとて者も亦一即ち理部利屋國ハ亞米利加にて志ある人の申合はて建てる國にて近來はあつたといふ人の賣買も

百國の總名を北河北利加乃馬留馬里伊予の端を以て後祿子多阿北利加一の帝國を以て

大減價ト云フ
○茂原子の港丹路
留ハ治部良留多雷
の瀬戸は臨ミ西班
牙國と對岸トシ

丹路の留の景



穀ノ地味肥リ
天乃恵ハ濃ク
君以政事ト以務
農ヲ勤シ
若ク耶一東

○阿留世里屋ハ氣
侯種トシテ五穀
實の登リみと茂
子ハ方らど其都
海岸より小高き山
の麓又開テ風景
四五十年前ハ此
邊ハ海賊多く諸國
の船と悩せ我文
化年中亞米利加の

隣ナリ阿留世里屋
人口二百五十萬
以去トシテ四十年
佛榮東西國一攻
片トモ不羈楯立

軍艦ふれがきり
阿留世里屋と攻て
六萬のりらるの償
と取りふとめり



のふん絶えし佛
よきもをりし徳奉
行のよんそあし
威も格く兵士軍
艦数れはと二百餘

○戸仁須戸里城等
の諸國の内はし戸
仁須の人ハよく農
業と勤り且此國は
ハ五穀綿桐草等の
外は銀銅鉛水銀の
産物ゆを戸里城の
人ハ寒と常食はせ
て都て荒火屋邊よ
り阿非利かの海岸

美以人氏を佛業
西帝の植風成仰
一麻くをの紫以重
ふれを東彌寺厨
都の河

ハ東の多き越えろ
○阿非利加の内
ハ西洋人の詮索
もいさしき委しく
らと越尾比屋ふと
の人ハ最も教すく
して人情甚と粗
ふやむくといふ趣
の黒奴ハ人と候し
肉と食ふ

新を戸仁波「産里」
堀馬留加國「其」
山國大略
同「春秋」
去留吉尔「名」



砂漠の内より稀
ハ山と草の茂た

わが「家」を支配する
者「阿非利加」の内地
の様「知事」を「大」
染「た」る國境「南」
越尾比屋

さあを警へば大海
さ鳴めらぐ如し往
来の人ハ地の草と
駱駝の飼料はまを
あつ但し人の食物
ハ数箇月の用意な
かぶづくとは又砂
漠ハ雨降らぬ
て水不自由なり
十日路も行て始て

「京阪小」
「佐東の京と北を」
「冬世界中心の大砂」
「漠東面一帯三百里」
「南北凡四百餘里」

湧泉は出逢ふ所の
みよやれは飲水の
貯もかくて川に
らとやう頃を我々
化二年は當に阿非
利加の人二十人駱
駝千八百疋と引
砂漠と渡りし折
しも水のあつ處は
行逢せばして残ら

「貯」
「の海」
「人」
「駱駝」
「大」
「貯」
「北」
「南」

を湯遊とるあやめ
○麻寺ハ小島
とも山水の風景甚
と産物ハ葡萄
酒ハ氣候ハ春夏
秋各大抵同様とし
病人かどの養生所
ト宜ハカ奈利屋ハ
西班牙の領あり

渡りしを砂濱離
をり平水の海
出せしハ麻寺崎
支配は葡萄牙葡
葡の業は酒の多し



この模様ハ大抵麻
寺ハ同

て石高島に地ハ
と地乃石高島
麻寺島の懐之
人麻寺島
カ奈利屋ハ

○新都邊禮奈ハ英吉利の領ありキ
 八百十五年即ち我文化十二年の頃佛蘭西帝弟一世が此島に和戸留樓といふ處にとりて英吉利の將軍ありてんとんと戦ふて敗北し此島は流と

乃甲多水場一帯
 當るに敷四町
 赤色山鳥の籠
 の名は少
 河を西に廻り輪苗



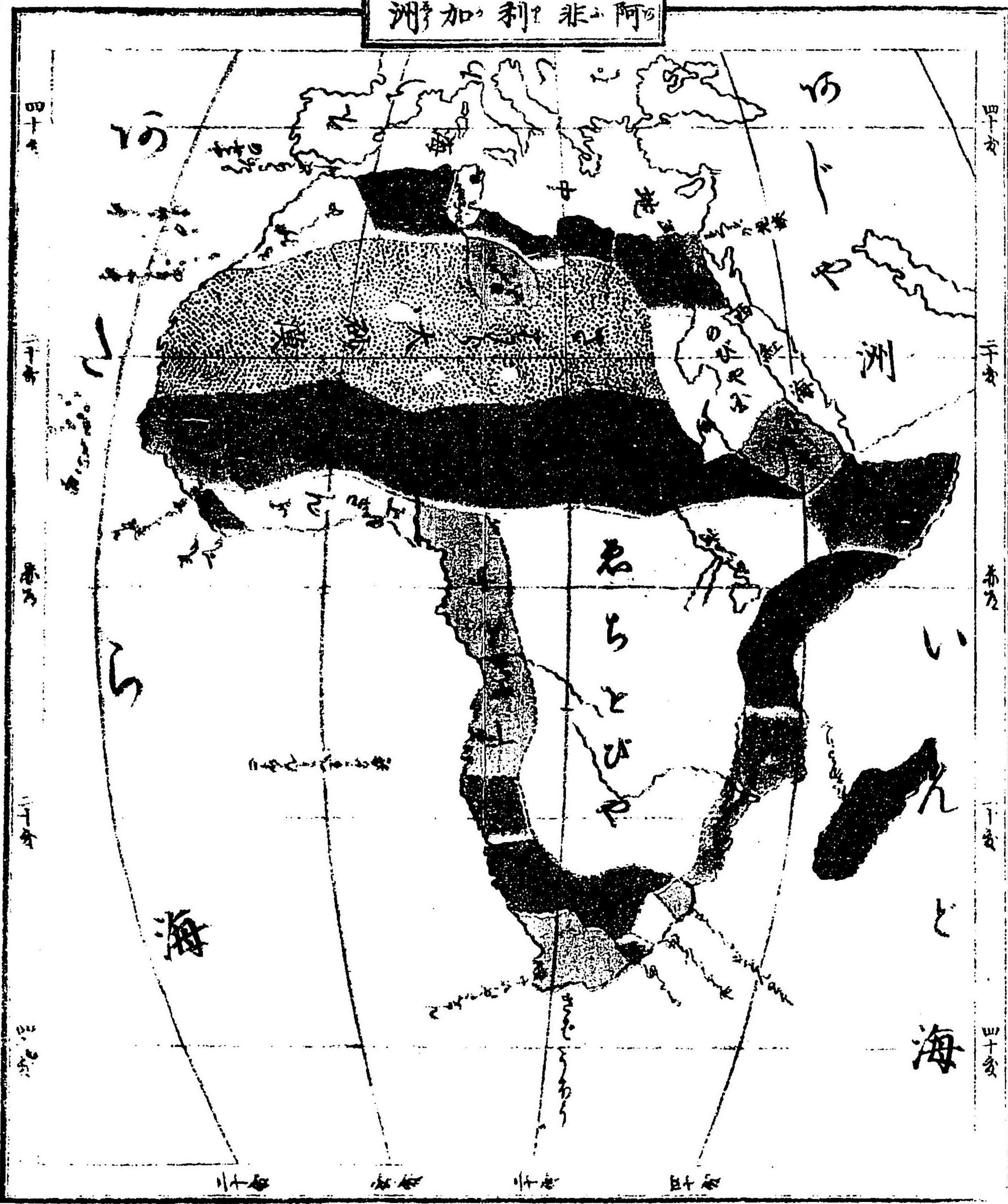
きて生涯を終せし
 此れを嶋の評判
 世に伝ふる

田嶋福田以南一帯
 淋に新都邊禮
 奈島一帯
 佛茶西
 奈島一帯

女が色とんを此島に
 小流さき千八百二
 十一年五月五日
 命と終せて死後
 悪人の取扱あり
 が千八百四十年佛
 蘭西人の心願より
 大造する禮式不
 て本國の都巴理斯
 一改革せしむ

阿戸留樓の戦ふ運
 糸巻くお欠く流
 罪なきりし由來
 嶋の名譽を中へ
 名子

阿非利加洲



阿非利加洲

